

これからの農村風景と地域活性化

東京工業大学 真田純子

- ・農村風景とは？
- ・農村風景をなぜ保全するのか？
- ・これからの営農と風景

農村風景の特徴

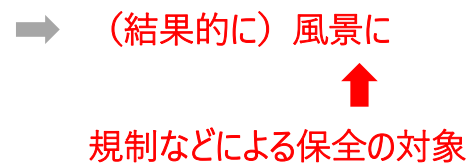


農村風景の成り立ち

そこで生きる

食べ物（農作物）をつくる

そのための基盤（田畑）をつくる



「農村風景」の残し方（よくある方法）

○ ・規制をかける（景観計画）

・文化財として残す
（重要文化的景観、名勝）

規制をかける（景観計画）

- ・行為の制限
- ・景観農業振興地域整備計画

・行為の制限

通常の農作業は対象外！

比較的大きな工事などが対象

ところで...

多くの中山間地で抱える課題は？

耕作放棄地の増加

草刈り等の手入れ不足

※規制は、意図的な行為が行為の制限の対象！

・景観農業振興地域整備計画

景観と調和のとれた土地の農業上の利用に関する事項

棚田等を含めた地域の良好な景観を形成するための施策を講ずるため、必要に応じて農業生産力の最大化等のための施策を抑制すべき場合がある

農業に対する意欲？
効率化のための整備

景観の点から抑制

営農

景観

両立

農村風景の成り立ち

この部分から風景を保全

そこで生きる

食べ物（農作物）をつくる

そのための基盤（田畑）をつくる



（結果的に）風景に



規制などによる保全の対象

農村風景をなぜ保全するのか？

農村風景を守る意味

「風景が良いこと」が最終目標ではない！

そこで暮らす人々が幸せに暮らせること
農村を次世代につないでいけること

「良好な風景」の果たす役割

住んでいる人の地域への愛着
移住希望者への魅力
観光資源

地域を元気にするために戦略的に活用！

耕作放棄されていない、だけで良いのか？



農山村集落の現状

※山梨県で、中山間地域を含む市町村
26/27

高齢化率

平地	中間	山間
36%	45%	51%

耕作放棄地率

平地	中間	山間
2.5%	5.1%	5.5%

農山村集落の現状

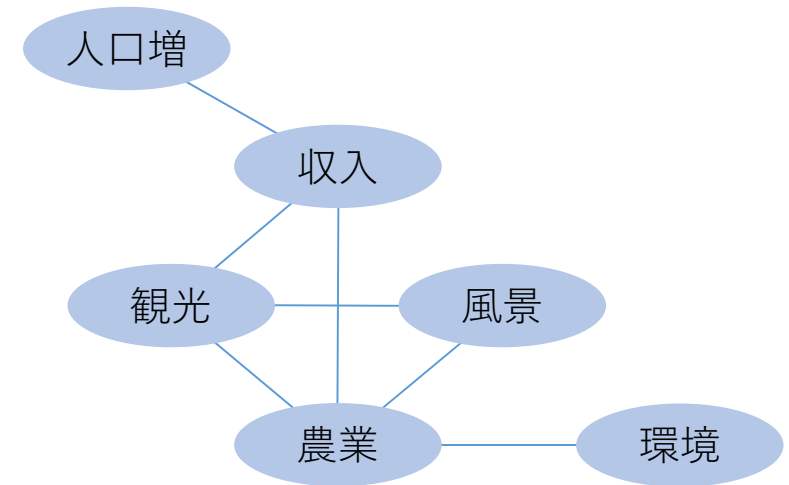
中山間地域の生産性

生産性比較	平地	中間	山間
労働生産性 (円/時間)	936	733	570
土地生産性 (円/ha)	97万	74万	70万
資本生産性 (円/1000円)	431	326	272

少し効率化を図るくらいでは、どうしようもない

農林水産省

イタリアの アグリツーリズム



次世代に向けた価値観を取り入れる

1戸当たり農地面積の国際比較

	農家1戸当たりの農地面積	日本との比較
日本 (2006年)	1.8ha	-
米国 (2005年)	180.2ha	99倍
EU (2005年)	16.9ha	9倍
豪州 (2004年)	3,423.8ha	1,902倍

資料：農林水産省

注：日本の数値は、販売農家1戸当たりの経営耕地面積

EU諸国と日本の農地比較

共通農業政策
の中で...

	フランス	ドイツ	イギリス	イタリア	日本
面積 百万ha (a)	19.59	12.02	5.7	12.02	4.79
農家数 万戸 (b)	66.4	47.2	23.3	215.4	298.1
ha(a/b)	29.5	25.5	24.5	5.1	1.6
比較	18.4	15.9	15.3	3.2	1.0

イタリアのアグリツーリズム

農村地帯でゆっくりと休暇を過ごす

※日本の農村体験とは違う
基本的に農業はやらない

イタリアの中流階級以上の方がバカンスを過ごす。
(1週間以上)



アグリツーリズム法（1985年、2006年改正）

目的

EUおよび政府、州の「農村開発」のプログラムに沿い、農村における適切な観光の形を推進することによって、農業を支える。

- a) それぞれの土地の特有の資源を保護し、特徴づけ、価値づける
- b) 農村エリアの営み（人の活動）の保護を支援する
- c) 農業の多様な機能と農業収入の変化を支援する
- d) 農業収入の拡大と生活の質の向上によって農業の事業性の観点から土地、領土、環境の保護を支援する
- e) 風景的特色を保護することによって農村建築遺産を再評価する
- f) 特産品と良質な生産物、その他の関係する伝統的な美酒美食を支援し助成する
- g) 農村の文化と食育を促進する
- h) 農業と林業の発展を支援する

（現在）イタリア：美しい農村風景と美食の国

★アグリツーリズム以前のイタリアの農村・農業

1960年代 空き家、耕作放棄、農村部の未開発
ワインは買い叩かれる
農村部の荒廃

★アグリツーリズムの開始

1965年 アグリツーリスト協会の設立
理念：農業と観光を結びつけ新しい世界を拓く
アグリツーリズムの振興
環境保護・歴史的農村景観・地域の食品の保全

★背景となる取り組み

- ・ガラツソ法（1985年）
- ・産地呼称制度
DOP、IGP、IGT、DOC、DOCG
- ・伝統的農産物
PAT（Prodotti Agroalimentari Tradizionali）
STG（Specialita' Tradizionle Garantita）
- ・スローフード運動（1986年）

★背景となる取り組み

※EUの農業政策

農家への所得補償を減らして生産性を諦めさせる
集約的農業→有機農業、環境保全型農業への転換
農村観光による所得の道

補助金
「なぜイタリアの村は美しく元気なのか」宗田好史

環境保全、持続可能性
→かなり早い段階でテーマに

イタリアのアグリツーリズム

その土地の農産物を消費し、試食させる

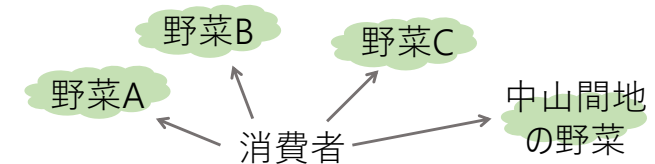
農産物の作り出す土地の文化を理解させる

農業の結果である農村風景
+
農業観光の資産である農村風景

自分たちの環境や文化が第一！
それを「活用」という考え方

消費者の変化

これまでの消費



消費者が合理的な選択をする
= 自分の効用を最大にするための選択

▶ 理想の社会づくりに貢献するための選択
(自分のために) 安全、安心、だけではない価値
結果から過程へ

次世代に向けた「付加価値」

次世代に、というところがポイント

簡単には消費されない価値をつける

- ・世界的な農業の流れ
- ・消費者の変化

(参考) 少し前までの「付加価値」
パッケージの再デザイン
物語をつける

目指していること：社会の価値観の変革

食品をめぐる経済の変化（流通、加工業）

→大量生産（薬品、品種）

→単一栽培（生物多様性の減少）

→農業の工業化（“外からのエネルギー”による農業）

社会の価値観の変化が、中山間地を「条件不利地」にした
社会の価値観が変われば、有利な土地になる可能性はある

消費者の変化

理想の社会づくりに貢献するための選択

(自分のために) 安全、安心、だけではない価値

結果から過程へ

まだまだ少数派

価値観の変化 ⇄ 消費行動の変化

農村の良さを生かした、持続的な農村の発展のために

良好な風景も、文化も、それを理解し消費する人も大事

